

甲斐扶佐義

「京都詩情」

MUZ
ART PRODUCE

カメラを持って街中をほっつき歩く。それだけで幸せなのだ。

(甲斐扶佐義「地図のない京都」まえがきより)



シャボン玉と少女 1991

日々、京都を撮りながら時代を跨ぐ。自由と反発の時代から不安定な今日に至るまで...

甲斐扶佐義は独特のスタイルを確立した。それは時代を超えて流行とは無関係だが、彼の住む街の日常に寄り添う。

彼は京都の大小さまざまな出来事のヴィジュアルストーリーを描いた。

京都にこのような眼差しを向けるものは彼以外に誰もいない。

包み込むような優しさと感謝の気持ち、深い人情が込められた視点。あらゆる場所や時間に潜む美を見出すことができる視点。京都のそれぞれの場所、日本社会の昼と夜が切り替わる律動の各瞬間に存在する美。

甲斐扶佐義は呼吸をするかのように写真を撮る。実存主義的なやり方で、一瞬一瞬に彼の詩人の魂が目覚める。シャッターを切るきっかけは、暮らしの意外な場面に対する驚きと感嘆であり、それぞれの瞬間には美が宿る。それは模索する視点だ。彼が出会ったこと、生きた瞬間に対する、ひとりの詩人の視点である。

パスカル・ボース（フランス国立造形芸術センター／写真部門責任者）



少女には横断歩道であれ 路地裏であれ遊び場
出町広場付近（青龍町） 1978



一輪車の少年 古川町商店街 1990



シルエット猫 ほんやら洞 1976



雪かきをする商店主たち 出町柵形商店街 1976

芸術家の集う店、
美女とネコ、
通りで遊ぶ子どもたち
夕立のなか、
買い物へ出るお婆さん



祇園町の四方山話 大和大路四条上ル末 吉町 1990



糺ノ森の妖精 糺ノ森 1994



市電を待つ 左京区田中関田町 1975



無人コインランドリーに居着く猫と戯れる 左京区田中春菜町 2001



落ち葉も楽し 糺ノ森 2002



白川女と子どもたち
河原町柵形西入ル 上ル相生町 1978

甲斐扶佐義 KAI Fusayoshi

2015年に火災で失われた伝説の喫茶店「ほんやら洞」、いまでも夜な夜な様々な文化人が集う「Bar八文字屋」。甲斐扶佐義(かいふさよし・1949年大分生)はこれらの経営者であり、文筆家、そしてなによりも京都を愛し京都を撮り続けている写真家である。モノクロの世界に落とし込まれたその情景は、懐かしさを感じさせつつ、どこか異国のもののようにも感じられ、日本国内外で愛されている。90年代には京都新聞紙上でフォト&エッセイを連載し、2001年より連続的に欧米各地で招待個展を開催。写真集は「路地裏の京都」「Beautiful Women in Kyoto」「京都の子どもたち」「京都猫町ブルース」等、40冊以上出版。近年もその創作意欲はとどまることを知らない。



<http://kaifusayoshi.website/>